

# ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌



第9号

2011.11

# 日本病院機能評価を 受審しました。

本年8月29日から31日までの3日間、日本医療機能評価機構の病院機能評価(v6.0)を受審しました。当院にとっては5年振り3回目の受審となりましたが、各領域の責任者のリーダーシップのもと事務部、看護部をはじめ病院のあらゆる部門で一致団結して当日までその準備と対応に当たっていただき、有難うございました。お陰様で、サーベイヤーの方々のコメントもおおむね好意的で、高評価であったと感じております。当院で開催している各種の研修会もそうですが、診療だけでなく、私どもは外部に向かって開かれた病院であることも大切なことと考えます。確かに、受審までの準備は我々にとって診療以外に負担となる作業ではありましたが、わが国の一般医療のスタンダードを知る機会になりましたし、私たちに未だ足りないものに気付く機会にもなりました。また、現場では様々な職種が相互に立ち入って病棟などの機能、マニュアルや設備を点検し評価する、あるいは互いに指導しあう機会になったことも有意義な点であったろうと思います。私どもは、運営方針として質の高い医療の提供の他に、情報発信と人材育成を掲げています。この点は、サーベイヤーの間でも高く評価していただいたと同時に、認定看護師の不足などの課題も指摘されました。ぜひこうした宿題もクリアして、あらゆる分野で我が国の精神科医療の発展に資する人材の育成を目指しましょう。

院長 杠 岳文



皆さん、たいへんご苦労様でした。

私自身、初回から参加はしていたのですが、過去2回はごく一部の担当責任者で、当事者意識の低い点もありました。しかし今回は全体を見る立場ですから、そういうわけにも行かず、皆さんの力を借りながら目を配ったつもりですが、これだけの大きな組織になると細部に渡って仔細に掌握するのは容易なことではありませんでした。各領域委員にお任せして、随分と皆さんに助けられたというのが本音です。実際に、受審直前の追い込みには、肥前の底力を感じました。そして、病院“肥前”が、いかにたくさんの、様々な職種の、スタッフの、日々の営みと頑張りで成り立っているかを、実感できたのも副院長としての有り難い収穫です。組織が大きくなるほどに、セクショナリズムや個人主義が目立ち、組織のタコツボ化を来しやすいのですが、機能評価は、そうした動きを考える良い機会にもなったのではないのでしょうか。

一時のお祭事で終える事無く、“機能評価だから”という枠を越えて、<継続こそ力なり>の言葉が教えるように、この動きと視点を日常業務に組み入れ、“肥前”の伝統を良い方向に育てて行きましょう、皆さん。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

副院長 橋本喜次郎

当院は、3回目の病院機能評価Ver6の受審を8月29日～31日に終えることができました。看護部としては、平成22年度の看護師長研究会並びに副看護師長研究会を中心に病院機能評価受審に向けて取り組んでまいりました。領域別の担当に割り当てられた看護師長を中心に審査対象のケアプロセス病棟はもちろんのこと、環境ラウンドとして全病棟のラウンドを計画的に実施し、受審を迎えられたことも大きな成果だと思います。

受審後の看護師長と副看護師長合同研究会では、今後「歯止めを如何にすべきか。」と継続して取り組んでいくことの具体的なあり方を看護部委員会活動や病院全体会議との連携での取り組み等と気持ちの熱い時期にと整理をしている所です。

最後になりましたが看護師長と副看護師長が中心となって良く頑張ったと思います。さらに、ラストスパートの状況は予想を遙かに超え職員一丸となって取り組めたことは大変うれしく思いました。

看護部長 宮平幸子



平成13年に最初の病院機能評価を受審して以来、5年毎の更新の今回が2回目となりました。

前回受審した経験のある職員が少ない中、毎週推進委員会を実施し、各職場の情報交換を行いながら、受審対策を行ってきました。受審日間近まで、各職場では準備に右往左往していましたが、どうにか無事に審査を終了するに至りました。

終了後の反省会では、「職員が病院機能評価という目標に向かって1つになった。」という感想があったことは、非常に有意義な経験になったと感じられました。

今後はこの経験を生かして、来るべき5年後に備えたいと思います。

事務部長 仲地善美

## 病院機能評価とは??

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたつて、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。病院機能評価の審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院が「認定病院」です。すなわち認定病院は、地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であると言えます。

（公益財団法人 日本医療機能評価機構HPより引用「<http://jcqhc.or.jp/works/evaluation/>」）

# 東日本大震災支援活動

## ～災害支援に参加して感じたこと～

今回、9月12日から16日の5日間、宮古市において大震災・津波の被災地支援をおこなって参りました。私自身は3回目の宮古訪問でした。実は私が最初に宮古を訪れたのは、震災前の平成22年の6月です。ある講演会に呼ばれていったのですが、その時は無論、今回のような大きな災害が起こるなどは夢にも思わず、静かな良い場所だと思っただけでした。本年3月に大震災が起こり、我々も支援に行くことになった時に場所が宮古市だと聞いて、何か運命的なものを感じずにはいられませんでした。4月に最初の支援に行ってきたのですが、その時は街の様相は全く変わっており、ここが10ヶ月前に来た場所とはとても思えませんでした(そのせいか、私自身の気持ちも昂ぶっており、本気で宮古への移住を考えたいです…余談ですが)。

前置きが長くなってしまいましたが、今回3回目の宮古(支援としては2回目)で感じたことを書かせていただきます。まず、5か月前と違い瓦礫はほとんど撤去されていました。その代わりにそこには雑草が生えていました。私にはそれがとても不気味に感じられました。人間がいなくなった遠い未来の日本を見ているようではありません。



支援活動自体は、初日から最終日までスケジュールが決められており、それに沿っておこなうだけでした。具体的には、保健師に同行しての仮設住宅や自宅への訪問、田老診療所での診察でした。地元の保健師のスキルアップもあり、訪問では後ろで話を聞いているだけでよく、訪問後にそのフィードバックをおこなうのが主な仕事でした。被災された方々への直接的な支援ではなく、それらの人々を支援している地元の保健師や診療所の医師などの支援者を支援することが、今回の第2クールの大震災被災地支援なのであろうと思いました。最終日には宮古市の保健師と合同で今回の支援活動の振り返りをおこなったのですが、最初は10分位で終わるのかと思っていたのですが、たっぶり2時間は話をさせていただきました。その間、ひたすら「共感する」「励ます」「褒める」に徹しました(ブリーフ・インターベンションと同じですね)。

最後になりましたが、何か目新しいことをするのではなく、彼らの後ろでそっと見守り、そして後ろ盾になってやるのが、現時点で求められている支援活動のあり方なのであろうと今回の活動で感じました。

医師 遠藤光一

3月末から4月の宮城県塩釜保健所管内の災害支援心ケアチーム参加以来、2回目の活動参加となりました。塩釜では、震災直後でいたるところに津波で流された車や家屋などが散乱しており、避難所の住民の皆さんや地元の職員さん、保健師さん達も混乱の中で対応されている姿が印象に残っています。特に災害直後の心的外傷への対応、中でも被災した子供さんや保育師さん、その親へのケアの重要性を痛感した体験でもありました。

“3.11”から6ヶ月、変わり果てた街は時は過ぎても何一つ変わっていないというのが宮古での印象です。瓦礫は片付けられていますが、街の復旧への新しい動きやエネルギーを感じるには、まだまだ時が必要なのかもしれません。被災住民のほぼ全戸が仮設住宅(団地)に移住を終えたと聞きました。保健師さんの同行の下で、いくつかの仮設住宅、ご自宅を訪問しながら活動してきましたが、街の風景と同様、住民の皆さんの心の内もまた「あの時」そして「この6ヶ月」と、その負担は益々かと感じます。仮設住宅での生活やコミュニティーに関する負担や現在の生活(仕事がない等)、将来への不安等が抑うつ、アルコール関連問題等、様々な心の問題を引き起こしている状況があるようです。元々、多くを語らないという地域特性もあるとのことで、潜在するケアニーズは多様であるとも考えられます。

塩釜でもそうですが、宮古でも保健師さん達の活動と住民さん達との信頼関係には敬服します。宮古では住民全戸のローラー作戦訪問が完了し、更に2回目を計画中とのことでした。保健師さんなしでは我々の活動そのものも存在し得ないというのが実感です。

今回の活動で出会った住民の皆さんの多くが、60歳以上の女性でした。どの仮設住宅を訪問しても、女性の皆さんにはコミュニティーのつながりや今を生きるための役割を生み出していると感じる場面もありました(仮設住宅での講話、壁屋心理士「つながりと役割」参考)。

精神科の看護師として、今そしてこれからできる支援活動には限界はあるかもしれませんが、何かできることをしたい、とまた今回も思いを強くした1週間でした。最後に支援に参加中、支えてくれた病棟職員の皆様に感謝です！

看護師長 西谷博則



このたびは第2クールの被災地支援として9/11～9/17に岩手県宮古市と岩泉町に伺いました。私自身3度目の支援で、1度目は震災2週間後の3/25～3/31に宮城県塩釜市に入りました。その時、避難所で生活されている方々は、たまたま避難所で隣に寝ている方を古くからの友人や家族のように扱い、ときには心配・世話していました。その時は「東北の人はなんて温かいんだろう！」と思いましたが、今思えばそれが被災直後のハネムーン期でした。次に4/18～4/25に宮古市に伺った時は、避難所内でのケンカもあり、幻滅期にさしかかっていた时期的な変化が見えました。震災半年後の現在は、既に避難所は閉鎖されて仮設住宅に入られており、被災者の二極分化が見られました。保健師さんと仮設住宅等を訪問すると、そこで被災者から聴く話は被災直後より重く、必死に考えないようにして耐えている遺族や、仮設住宅で孤立した男性の姿が印象的でした。訪問を続けて懸命に地域の方を支える保健師さん達は、震災直後の疲れた姿とは異なり、頼もしくもありました。しかしたまたま訪問前に知人と会った時に自分の家の被災について話し、仕事の面では「終わりが見えない」と話されていたのを聴くにつけ、地元の保健師さん達の苦労が偲ばれるとともに本当に頭の下がる思いでした。ケアチームの活動は訪問の同行や、支援者向けのレクチャーなど保健師さん達をバックアップすることが中心でしたが、保健師さん達からは事例の評価などのためにケアチームの支えは心強いと言われました。もともとの精神科医療の乏しい地域で保健師さん達が心のケアを担っていくのに、当院からのケアチームが助けになればと思います。

心理療法士 壁屋康洋

# 第33回日本アルコール関連問題学会 佐賀大会開催！！

7月22日、23日の両日、第33回日本アルコール関連問題学会(第23回九州アルコール関連問題学会)佐賀大会(大会長:杠岳文院長)が、「アルコール医療新時代～新たな治療・支援、そして予防へ」をメインテーマに、グランデはがくれ、アバンセの両会場で開かれました。

当院西4病棟は、大会事務局として1年以上前から準備を進めてきました。当初は、全国規模の大会を佐賀で無事に開けるのか、事務局スタッフは不安でいっぱいでしたが、杠院長の「何とかなるよ」という言葉と、大会実行委員である九州各地の先生方のご協力もあり、基礎的な内容からこの分野の最新のトピックスまでにわたる、充実したプログラムを準備できたと自負しています。当院からも、杠院長の会長講演やブリーフインターベンションワークショップをはじめ、座長や話題提供等多くの役割を担い、裏方に徹するのではなく、情報発信も忘れずに行いました。当日は炎天下ではありましたが、最終的に700名を超える参加があり、盛会裡に終了できたことにほっと胸をなでおろしているところです。



会場の選定から当日の運営、終了後の会計処理まで、宿泊の手配以外はすべて、プロの手を借りずに事務局スタッフが病棟業務の傍らで行ったため、不備な面が出てはそれに対処することの連続という、まさに手探り状態でしたが、運営上の大きなトラブルもなく、事務的にも成功をおさめたことは奇跡に近いと思います。

学会にご参加いただいた方々、当日学会運営を手伝ってくださった職員の皆様、事務局業務を陰で支えてくれた西4病棟スタッフに、深く感謝申し上げます。

医師 武藤 岳夫

# 院内研修

～ひぜんの職員はこんな研修を受けているよ！～

肥前ではより質の高い病院にするため、専門の先生方をお招きして様々な研修を開催しています。

## 院内感染予防研修



開催日時 平成23年7月7日(木)15:00～16:00  
 開催場所 医師養成研修センター1F 大ホール  
 演題 医療スタッフが知っておくべき職業感染防止策  
 講師 佐賀大学医学部附属病院  
 感染制御部長 青木 洋介 先生  
 参加者 366名 ※DVD放映を含む

## 禁煙教育研修



開催日時 平成23年7月28日(木)15:00～16:00  
 開催場所 医師養成研修センター1F 大ホール  
 演題 たばこをやめて元気になろう  
 講師 佐賀大学医学部附属病院  
 呼吸器内科 林 真一郎 先生  
 参加者 53名

## 個人情報保護



開催日時 平成23年7月15日(金)15:00～16:00  
 開催場所 医師養成研修センター1F 大ホール  
 演題 個人情報保護について  
 講師 松本法律事務所 弁護士 松本 佳郎 先生  
 参加者 78名

## 倫理研修



開催日時 平成23年8月9日(火)15:30～16:30  
 開催場所 医師養成研修センター1F 大ホール  
 演題 精神科医療と倫理  
 ー患者の権利と社会の利益との狭間でー  
 講師 久留米大学・西南学院大学  
 非常勤講師 伊佐 智子 先生  
 参加者 86名

## 院内コンサート開催！！

今年の夏、患者さんと職員の皆さんに、思いがけず、すてきな音楽のプレゼントが有りました。それは、アメリカに在住されているヴァイオリニストの伊藤博仁(イトウヒロミ)様をお迎えて、ミニコンサートを医師養成研修センターで開催することが出来たからです。

伊藤様は、大分県のご出身です。普段はアメリカインディアナ州に在住されて、フォートウェイン・フィルハーモニック(Fort Wayne Philharmonic)のコンサートマスターとして音楽活動をされています。今回のお話は、伊藤様が九州大学のご出身であり、その学生時代からの親友でいらっしゃる向野良介先生(神経科/心療内科:このクリニック福岡市東区馬出)からのご紹介でした。向野先生は九州大学精神科の同門で、センター長の黒木先生や私共の先輩に当たる方です。そうした縁から今回の話を頂き、ピアニストの物井理恵様も伴奏にお迎えて、コンサートを開催する事が出来ました。



『ああ～この曲、この曲！』と馴染みのある選曲を、伊藤様にして頂きました。和やかな調べと伸びのある響き、心地よいリズム。あっという間の楽しいすてきな60分でした。それは、声音ひとつ雑音もなく、患者さん、職員の皆さんが聴き入ってくれたことからわかりました。万雷の拍手でアンコールの曲も披露して頂きました。

医師養成センターの1階大ホールは、コンサートを想定して設計されたものでは有りませんが、今回のようなミニコンサートを開くにも十分だと思いました。伊藤様、物井様から来夏のコンサートの期待を頂いたことも嬉しいことです。再会を叙して皆で気持ちよくお見送りする事が出来ました。

(機能評価受審直前の多忙の中で、開催に際して様々な準備をしてもらいました関係者スタッフに改めて感謝致します。)

副院長 橋本喜次郎

### 演奏曲目♪

クライスラー: ロンディーノ

チャイコフスキー: メロディー

ドボルザーク: ユーモレスク

ヴィターリ: シャコンヌ

サラサーテ: アンダルシアのロマンス

アルベニス: タンゴ

サラサーテ: チゴイネルワイゼン

# 肥前の顔！ ホームページの全面一新です！

肥前のホームページは、2002年4月1日にスタートしましたが、この度、全面的に刷新して、9月1日にオープンしました。

これまでのページを一新して、情報をいち早く更新出来るように、CMS(Content Management System: XOOPS)という仕組みを取り入れています。レイアウトでは、無駄を省いてスリムな内容に集約し、興味ある内容へ速やかにたどりつけるようにしました。わかりやすい親しみのある表現にも注目して下さい。

→『“ひぜん”ってどんなところ？』

『“ひぜん”で元気になる』

『“ひぜん”で働く・学ぶ』

『精神科研修といえば“ひぜん”！』

様々な資料もPDF書類にしました。皆さん、一度開いてみて下さい。ビューワー形式を採用しましたから、まるでページをめくるような感覚で動作しますので目を引くことと思います。

いろいろな全国研修を募集していますが、今回初めて、Web上でも申し込みを受け付けられるようにしました。応募状況も一目でわかる利便さです。

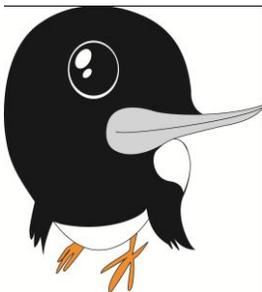
さらにQ&Aコーナーを設けたり、ご質問フォームなども設置しました。携帯アクセス専用のサイト(右QRコード)も準備しました。

これからも、皆様に親しまれるページ作りと、リアルタイムな情報発信を目指していきたいと思っています。ご意見、ご感想をお待ちします。



医療情報管理室 大庭三鶴

<http://www.hizen-hosp.jp/>



新しかホームページば見て、  
もっともっとひぜんの事ば  
知って欲しかア〜！！

# 肥前納涼祭

8月3日、今年も**肥前納涼祭**が開催されました。  
このイベントはひぜんの患者様だけでなく、地域の皆様  
もお招きしての**夏の一大イベント**です。



**炎天下の中**、スタッフみんなで協力して準備  
をしました。  
休憩中に食べたアイス、おいしかったな♪



みんなで**盆踊り**や  
**ソーラン節**を踊った  
り、**真美体操**や**クイズ大会**といった楽し  
いイベントもありました。



最後は、たくさんの**花火**  
がひぜんの夏の夜空を  
彩りました。こんなに間  
近に花火を見られるのは  
肥前の納涼祭ならではの  
すね(˘˘)



# 日本茶発祥の地は 吉野ヶ里にあり



多くの日本人の間で飲用され、無くてはならない「日本茶」のルーツが佐賀県にあると聞きます。今回は日本茶発祥地について紹介したいと思います。

日本茶発祥地とされている場所は、佐賀県脊振村霊仙寺と言われ、宋で修行を終えた栄西が薬草として栽培を開始したのが発祥とされています。（現在は、佐賀県神埼郡吉野ヶ里町東脊振地区に霊仙寺跡地があります。）栄西は、その後京都の宇治に茶の種を植え、それから全国に茶は伝わりました。

霊仙寺のある脊振山は、茶と同じツバキ科の仲間であるサザンカの自生地域であったことが日本茶栽培に適した場所として、選ばれた要因だと言われています。現在は「千石山サザンカ自生北限地帯」として国の天然記念物に指定されています。

昔は、栄西が種を蒔いた場所から「岩上茶」として地元で親しまれていましたが、1990年より「栄西茶」ブランドとして日本茶発祥を全面に強調し、栄西茶を美味しいお茶の代名詞に育てていこうとしています。

是非一度、「栄西茶」をご堪能されてはいかがでしょうか。

取材班：武田 梅山 梶谷

写真提供：吉野ヶ里町 NPO法人弥生吉野ヶ里



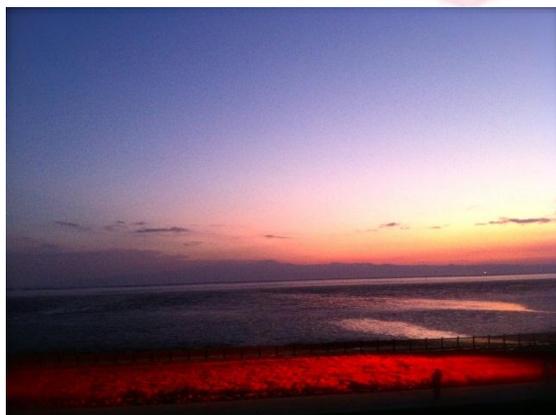
## これぞ1枚シャッターチャンス！！

### 有明の秋 シチメンソウ

有明海の秋の風物詩、塩生植物シチメンソウの輝きです。

ちょうど日が沈む光景と重なりましたが、その紅輝は夕日に負けていませんでした。正面は雲仙です。

（副院長 橋本）



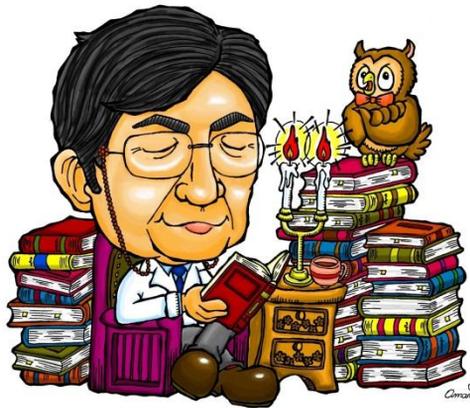


イラスト: amano

## 目次

P2-3	日本病院機能評価を受審しました。
P4-5	東日本大震災～災害支援に参加して～
P6	第33回日本アルコール関連問題学会 佐賀大会開催！！ 肥前NEWS 院内研修
P7	～ひぜんの職員はこんな研修を受けているよ！～ 院内コンサート
P8	肥前の顔、ホームページの全面一新です！
P9	肥前納涼祭
P10	吉野ヶ里の名所 日本茶発祥の地は吉野ヶ里にあり
P11	これぞ1枚！シャッターチャンス！！

### 編集後記

暖かな秋から一転、急に冷え込むようになってきました。冬を感じさせるこの時期、風邪をひかないよう体調に気をつけて元気にお過ごしください。  
次回のひぜんだよりもお楽しみに。

事務部 梅山 佑輔

## 患者様の権利

- 1.安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
- 2.疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利
- 3.治療法を自由に選択し、決定する権利
- 4.プライバシーが守られる権利
- 5.常に人としての尊厳を守られる権利
- 6.医療上の苦情を申し立てる権利
- 7.継続して一貫した医療を受ける権利
- 8.GPLや生活背景に配慮された医療を受ける権利



平成23年11月30日発行

編集・発行:肥前総合情報誌編集委員会(橋本喜、佐伯祐、仲地、城島、有里、山口、三角、中谷、名嘉、山本、面高、佐伯美、佐藤、天野、藤瀬、高木、大坪、鶴丸、宮下、梅山、武田、梶谷)

発行所:独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

TEL0952-52-3231 Fax0952-53-2846

WEB <http://www.hizen-hosp.jp/>